

2024年5月7日

関係各位

千代田化工建設株式会社  
IR・広報・サステナビリティ推進セクション

## 三菱重工業(株)とCO<sub>2</sub>回収技術ライセンス供与に関する協業契約を締結 需要拡大が見込まれる国内CCUS市場への対応力強化を図る

千代田化工建設株式会社(本社:横浜市、社長:太田 光治、以下「当社」)は、三菱重工業株式会社(本社:東京都千代田区 取締役社長:泉澤 清次、以下「三菱重工」)と、CO<sub>2</sub>回収技術の包括ライセンス契約(GLA: General License Agreement)を締結しましたのでお知らせいたします。

本契約の締結は、国内向けCO<sub>2</sub>回収プロジェクトを対象に、三菱重工が関西電力株式会社と共同開発したCO<sub>2</sub>回収技術である「KM CDR Process™」および「Advanced KM CDR Process™」のライセンスを当社に供与するための戦略的な協業契約を行うものです。

三菱重工とのパートナーリングは、CCUS(Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage)の需要拡大が見込まれる国内市場において、CO<sub>2</sub>回収プラントのEPC(設計・調達・建設)取り込みに伴う当社のCCUS案件への取り組み強化を目的としております。三菱重工は、CO<sub>2</sub>回収技術のライセンサーとして世界の市場をリードする企業であり、同社技術を用いたCO<sub>2</sub>回収プラントは世界中で納入された実績があります。提携を通じて両社の強みを生かすことで、幅広い産業分野の脱炭素化ニーズへの貢献を図ります。

### 両社幹部集合写真



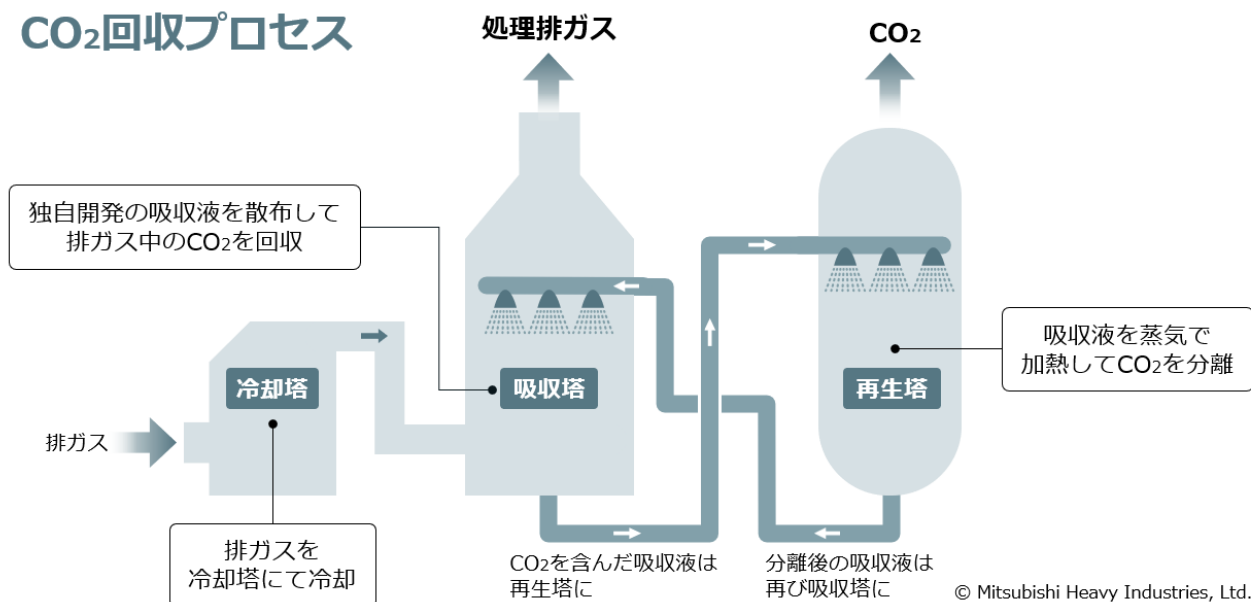
三菱重工 GX セグメント セグメント長代理 長安 立人(左)、当社 専務執行役員 小林 直樹(右)

当社は総合エンジニアリング会社として、カーボンニュートラル社会の実現に向け、CCUS に関連する Value Chain 構築の観点から、自社での技術開発等に加え、新分野の EPC における社会実装を加速させる有力企業とのパートナーリング等、多方面から事業に取り組んでいます。これらの事業を通じて、エネルギーと環境の調和を目指して、持続可能な社会の発展に貢献してまいります。

### 三菱重工グループの CO<sub>2</sub> 回収技術について

三菱重工グループは、1990 年から関西電力株式会社と共同で CO<sub>2</sub> 回収技術 KM CDR Process™ や Advanced KM CDR Process™ の開発に取り組んでいます。2024 年 5 月現在、KM CDR Process™ を用いたプラントを 16 基納入しており、さらに 2 基を現在建設中です。また Advanced KM CDR Process™ には、これまで納入した商用の CO<sub>2</sub> 回収プラント 16 基全てで採用されているアミン吸収液 KS-1™ に技術改良を加えた KS-21™ が採用されています。KS-21™ は、KS-1™ と比べて再生効率に優れ劣化も少ないといった特長を持ち、優れた省エネルギー性能と運用コストの低減および低いアミンエミッションが確認されています。

### CO<sub>2</sub> 回収プロセス



【三菱重工グループ「CO<sub>2</sub> 回収技術」製品情報はこちら】

<https://www.mhi.com/jp/products/engineering/co2plants.html>

以上

この件に関するお問い合わせ先 : IR・広報・サステナビリティ推進セクション 池尻

Email: [irpr@chiyodacorp.com](mailto:irpr@chiyodacorp.com)

URL: <https://www.chiyodacorp.com/jp/contact/index.php>